

病院医誌の再発刊にあたって

むつ総合病院 院長 橋爪正

このたび、むつ総合病院医誌が再発刊されることとなりました。

医誌編集に携わった皆様の御努力に、改めて感謝いたします。

ところで、SNS 全盛の時代に、投稿論文は古いとお考えの方はいませんか？
確かにスピードだけを考えると、論文を作成してゆく過程はいかにも緩徐な作業であるとのそしりを免れないかもしれません。

しかし、ウサギと亀の例えではありませんが、論文には思いもよらぬ長所が多いことを、論文作成を重ねる毎に私たちは実感するようになるでしょう。

まず第1に、文献検索は常に大儀な作業ではありますが、多くの文献を読み解くうちに、論文全体の構成を立てやすくなることに気がきます。

第2に、徐々に文章化してゆく中で、自分の考えがまとまるようになり、主張したいことが明確となる（見通しが良くなる）ことを感じるものです。

第3に、作成した文章を繰り返し校正すると、思いもよらぬ考察の転回を体験することがあります。

最後に、製本化された自分の論文を改めて眺めるときに、これまでの努力が思い出されたりするのは感慨深いものです。言い足りなかった事があると感じれば、そこから次の進展の手がかりが生まれてきます。

かくのごとく、論文作成は地道な作業ですが、きわめて創造的な作業でもあり、一度醍醐味を味わうと繰り返しが徐々につらくないものとなるでしょう。

多くの職員から様々なジャンルの論文が投稿されることを、心から期待しております。